

## ダンス一筋

平成元年に旧南那須町で生まれた笹崎愛さんは、高校卒業後、ダンスを学ぶために上京。東京の世田谷に住み、毎週土日にダンスを教えるために那須烏山に帰ってきている。

小学生の頃からダンスを始め、中学校に上がった頃には東京に行くことを夢見ていた。「高校受験に失敗したら東京に行く」と思っていた程である。高校卒業後、上京し、ダンススクールに通った。東京のダンスのレベルは高く、学生時代にスクールに通っていたときはセンターを務めていたが、外の世界に出てみると通用せず、何度も挫折を経験したという。

その後、21歳から那須烏山で施設を借り、サークルのような形でダンスレッスンを始めた。25歳の頃には生徒数が増え、責任を持って教えたいと考えるようになった。那須烏山にレッスンスタジオ「Rough Diamond」を設け、現在は子供たちに毎週ダンスを教えている。ヒップホップ・ジャズをメインにレッスンするが、ジャンル関係なくダンスが大好きだ。現在は、外部講師を呼んで教えてもらうこともあり、子供たちがたくさんのことを吸収できるように工夫している。



〈プロフィール〉  
笹崎愛さん  
那須烏山市出身 31歳  
「Rough Diamond」  
ダンスコーチ

## ふねたか

笹崎さんにとって那須烏山というのは、人とのつながりがよく見え、道ゆく人々が温かく、まさにふるさとであるという。また、那須烏山で行われていた「いかんべ祭」のステージで育てられたといっても過言ではないという。小学4年生から高校生まで毎年参加していた。そのほか、ユネスコ無形文化遺産の山あげ祭にも参加をしていた。平成23年から参加をし、元々催し物のなかった山あげ祭だったが、商工会の企画により数度ステージに立つことができた。伝統文化に新しい文化を取り入れる点ではとてもよい試みになったと考えている。

新しい形で子供たちが輝けるよう、若い世代が行政へもっと意見をしたいが、エネルギーを割ける人が少なくなっているのも事実。那須烏山だからこそできることとして、ダンスを教え、生徒が教わったことをアウトプットできる場があることを挙げている。那須烏山を愛しているからこそ毎週戻ってきてダンスを教え、自らも成長しているのだ。



## 未来を担う子供たち

現在は、中学生をメインにダンスを教えている。教える中で信念としているものがある。1つ目に、「自分をきつかけに色々な所へ羽ばたいて欲しい」という思い。2つ目に、「東京と栃木の架け橋になる」こと。

今の子供たちは幼いころから習い事の1つとしてダンスと接しているため、到着地点が早い。そのために、やめるのも早くなってしまっている。プロのダンサーになった教え子がまだいないため、そこを目標としている。現在は、コアチ業を中心としていて、「子供たちに教え、教える中で自分自身も成長しながらきつかけ作りをしたい」と考えている。生徒に教えることは自分自身の勉強でもあるからだ。「学ぶことはまねること」「自分自身が学び続けなければアウトプットができない。子供もたちの成長を促すため、今でも努力し続けられるのだ。」

担当：原田裕希



▲「Rough Diamond」のスタジオ